

学校教育目標 ☆志を持ち自ら学ぶ生徒 ☆豊かな心を持ち 礼儀正しい生徒 ☆健康でねばり強く 取り組む生徒	 岡部中だより ～地域とともに～	深谷市立岡部中学校 特別号① 令和4年 11月 4日 TEL 585-2623
--	---	--

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果(岡部中学校)

平均正答率

自校の平均正答率と埼玉県・全国の平均正答率との比較

	国語	算数・数学	理科
岡部中	67(下回った)	43(下回った)	45(下回った)
埼玉県	70	52	49
全国	69	51.4	49.3

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	岡部中	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	94	92	92
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	85	81	80
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	99	92	92
	新聞を読んでいる(週に1回程度以上)	9	8	9
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	72	60	59
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	89	78	75
	昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた	92	83	79
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	73	74	69
教科への関心	国語の勉強は好きだ	72	61	62
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	96	91	90
	算数の勉強は好きだ	75	57	58
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	83	75	77
	理科の勉強は好きだ	62	65	66
	理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う	71	63	62
ICTの利活用	昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	84	51	51
	学校で、授業中に自分で調べる場で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	80	37	37
	学校で、学級の生徒と意見を交換する場で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	37	15	18
	学校で、自分の考えをまとめて、発表する場で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	19	13	13
	平日、1日あたり1時間以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っている	43	40	41
その他	自分には、よいところがあると思う	80	81	79
	将来の夢や目標をもっている	81	69	67
	人の役に立つ人間になりたいと思う	97	95	95
	今住んでいる地域の行事に参加している	63	36	40

【国語】

- ・ 説明的な文章や文学的な文章を意図的・計画的に取り組む。その際、日頃の読書活動と結び付けられるように指導していく。
- ・ 自分の考えをわかりやすく表現できるよう、工夫してスピーチをする場面を設ける。その際、聞き手の興味や関心を引き出せるように工夫する。(授業だけでなく朝の会や帰りの会にもスピーチを実施等行うとよいと考える。)
- ・ 正しい漢字が書けるように、漢字の小テストの実施や漢字練習の宿題を提示し繰り返し学習し、定着をさせる。
- ・ 文学的な文章を読解する際に、登場人物の心情を捉え、場面と場面、場面と描写を結び付けて登場人物の心情を捉えるよう指導していく。

【算数・数学】

- ・ 基礎的・基本的な問題を繰り返し取り組ませ、簡単な文字式の計算や素因数分解、合同条件の理解など、基礎・基本の定着を目指す。宿題を毎回提示しているので、その見届けを丁寧に行っていく。
- ・ 膨大なデータを読み取ったり、問題文が非常に長い問に、難なく取り組めるよう授業の課題作成に配慮しながら行っていく。問題文を読解する力や読み取る力も必要になってくると考える。
- ・ 具体的な数値を用いたりする場面では、問題の事象を捉えることができているが、一般化され、抽象的に捉えとなった時に、正答率が下がってしまう。文字式の意味を正しく理解させ、文字式の内容を活用される授業を展開していきたい。

【理科】

- ・ 実験や観察を行う際に、結果を分析し解釈して、それを根拠に課題に正対した考察を行うことが一連の流れとして行わねばならないが、実験観察結果が仮説と反した場合、失敗だったとして検証をせずに終了してしまうのではなく、そうなった場合、なぜこのような結果が出たか、対話的な学習や協働的な学習を通して解決していきたい。
- ・ 化学反応式に関する問いでは、授業の中で、元素記号、化学式、化学反応式をそれぞれ正しく理解できているか、また活用できているかを見るため宿題の提示や小テストの実施を持って繰り返し行い定着を図っていく。
- ・ 実験計画を生徒が自ら立案し、課題を解決していく学習に取り組む必要がある。また必要に応じ、実験結果により計画を修正し、再度実験に取り組むといった活動も必要である。

